

～医療的ケア児等コーディネーター養成研修を振り返って～

研修期間:令和4年12/16~27 オンデマンド~

3/14~15 (9:30~17:40) 県民交流センター

1、医療的ケア児等コーディネーターって…？

名前の通り、医療的ケア児が地域で安心して暮らしていけるよう、各種サービスや支援を総合調整（＝コーディネート）する人のことです。

今までも、各種サービスや支援を調整する役として相談支援専門員がいました。ですが、医療的ケアについて詳しい相談支援専門員が少ないこと、発達に遅れがなく、身体障害者手帳や療育手帳^めがないため医療的ケア児が使える福祉制度がないなどの課題に対して、新たに医療的ケア児等コーディネーターが養成されることになりました。

2、だれが医療的ケア児コーディネーターになるの？

一番多いのは相談支援専門員ですが、保健師・看護師・行政職員など様々で、職種の制限はないようです（ただし、研修受講のためには市町村からの推薦を必要とする場合もあります）都道府県や市町村のホームページで、自分の自治体にはどこにコーディネーターがいるかを調べることができます。

3、コーディネーター養成の背景について

今までは、医療的ケア児といえば重症心身障がい児でしたが、そのほとんどの子ども達は療育をうける場所に通い、特別支援学級に通う、という流れが当たり前になっていました。それが、医療の進歩を受け、動ける医療的ケア児や、発達の遅れがない医療的ケア児が少しずつ増えてきました。それに伴い、子ども達が育つ場所が、保育園や幼稚園、一般の学校へと広がっていきます。ですが、今現在、それぞれの持つ可能性を発揮できる場所に行きたいと思ったら、たくさんの壁を乗り越えるため、ご家族が奮闘しなければならないという現実があります。その役目を担い本人、ご家族の人生の伴走者となるのが医療的ケア児等コーディネーターであります。

4, 実際の研修内容

- ・ 総論
- ・ 医療
- ・ 本人、家族の理解
- ・ 福祉
- ・ ライフステージにおける支援
- ・ 支援体制整備
- ・ 計画作成のポイント
- ・ 演習（計画作成）
- ・ 演習（事例検討）
- ・ 担当者会議（ケース検討）

* 内容については、医療的ケア児、ということもあり、医療の内容がほとんどであった。

5、今後、医療的ケア児等コーディネーターに求められるもの

- ①医療と福祉、教育をコーディネートする力
- ②入院中から本人、家族の意思決定の支援を医療関係者と協働でおこなう
- ③重症児等への相談支援業務（基本相談・計画相談・ソーシャルワーク）
- ④本人の成長と発達を支援し、その子どもなりの自立ができるよう支援する。
- ⑤養育者が障がいを持つ子どもの親となれるよう支援する
- ⑥本人・家族の人生の伴走者

講義の中で、コーディネーターに求められる資質と役割として、「地域に必要な社会資源等の改善、開発に向けての実践力」を強調されていました。今ないものはつくる！ということです。前例がないことを打ち破るのが難しい日本の社会で、それを担う役割をもつ医療的ケア児コーディネーターを行政が育成する…という意味は大きいように思います。

そして、この動きは、今まで当たり前療育、特別支援学校へと進んでいた重症心身障がい児のこども達の選択肢を増やすことにつながるのではないかと考えます。

6、医療的ケア児等コーディネーター研修を受けての感想

今回の講義の中で印象的であったのが、これまでは「利用者、家族の思いや願いがはっきりしない」という意思決定能力が問題視されてきましたが、とわれるべきことは「私たちの意思決定支援能力」であるということ。難しい問題を短時間で明確に決めてもらうことは容易なことではありません。本人・家族にとって後悔することがないように、一緒に寄り添い、ライフストーリーを考え、そのストーリーに欠かせない支援をしていくことが大切なことであると考えさせられました。

また、「優先的な創出しなければならない社会資源の考え方」として、第一に生理的欲求・安全の欲求 ⇒ 所属・愛の欲求 ⇒ 承認の欲求 ⇒ 自己実現 の優先順位です。しかし、優先順位はそうであったとしても、私たちは、他者に認められ自分の夢や目標を達成したいと常に願っているのではないかと思います。サービスや支援を考えるとき、その人にとっての「豊かな生活」「自分らしく、キラキラ輝く毎日」をイメージすることはとても大切なことではないかと考えます。今後、コーディネートする機会があれば、生理的欲求や安全が満たされるなかで、他者に承認される喜びや夢、目標に向かっていけるような社会資源を考え、子ども達やご家族と一緒にライフストーリーを紡いでいけるような支援ができたらと思います。